2.　三番瀬における地盤高ごとの生物相の整理

(1) 底生動物

三番瀬周辺における底生動物の既往調査結果について、地盤高に着目して整理した結果は、図 1-1 に示すとおりである。なお、図 1-1 に示す種は、地盤高との関係が見られた代表的な種を示している。

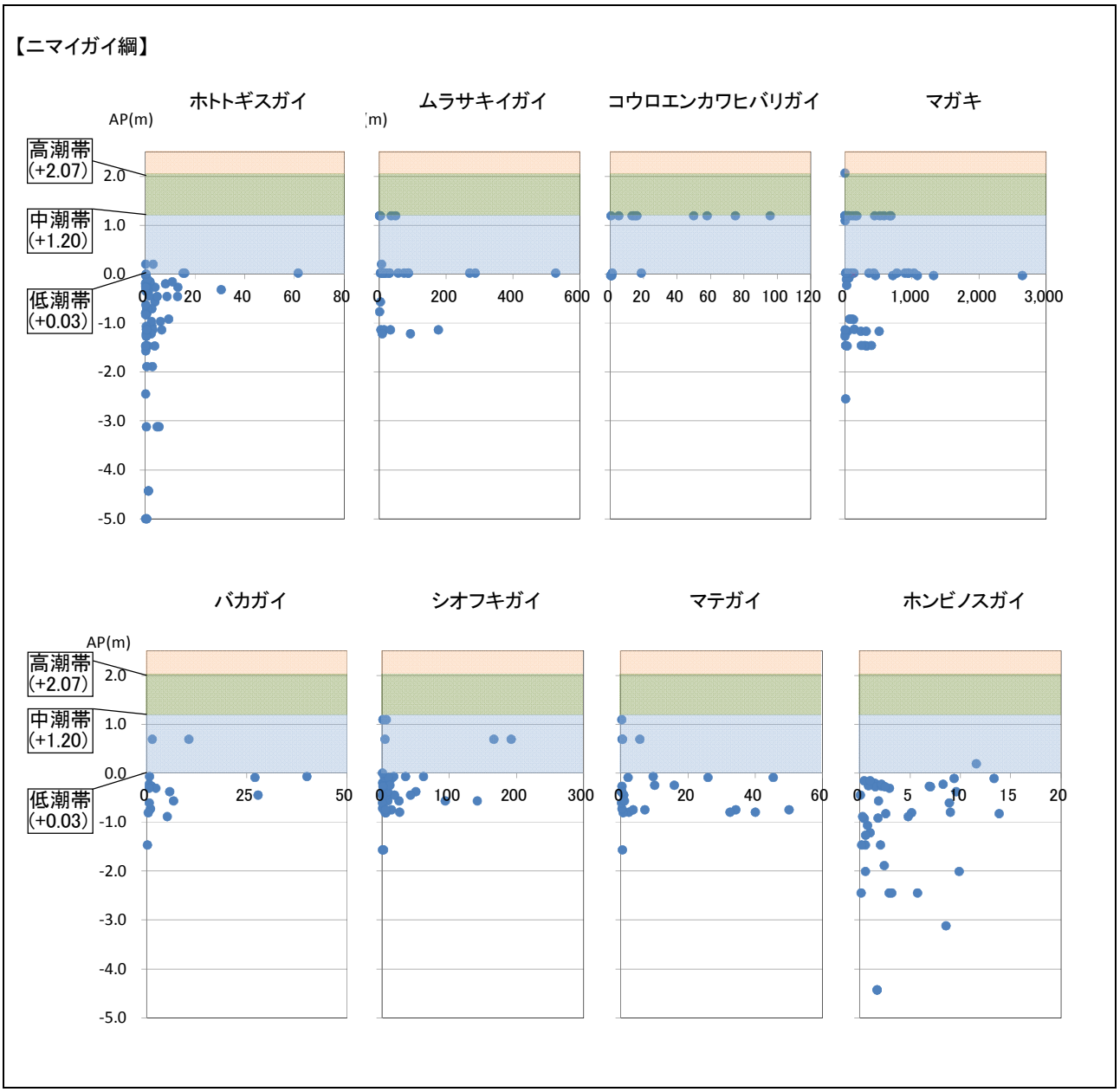


図 1-1 (1)　地盤高ごとの底生動物の確認状況

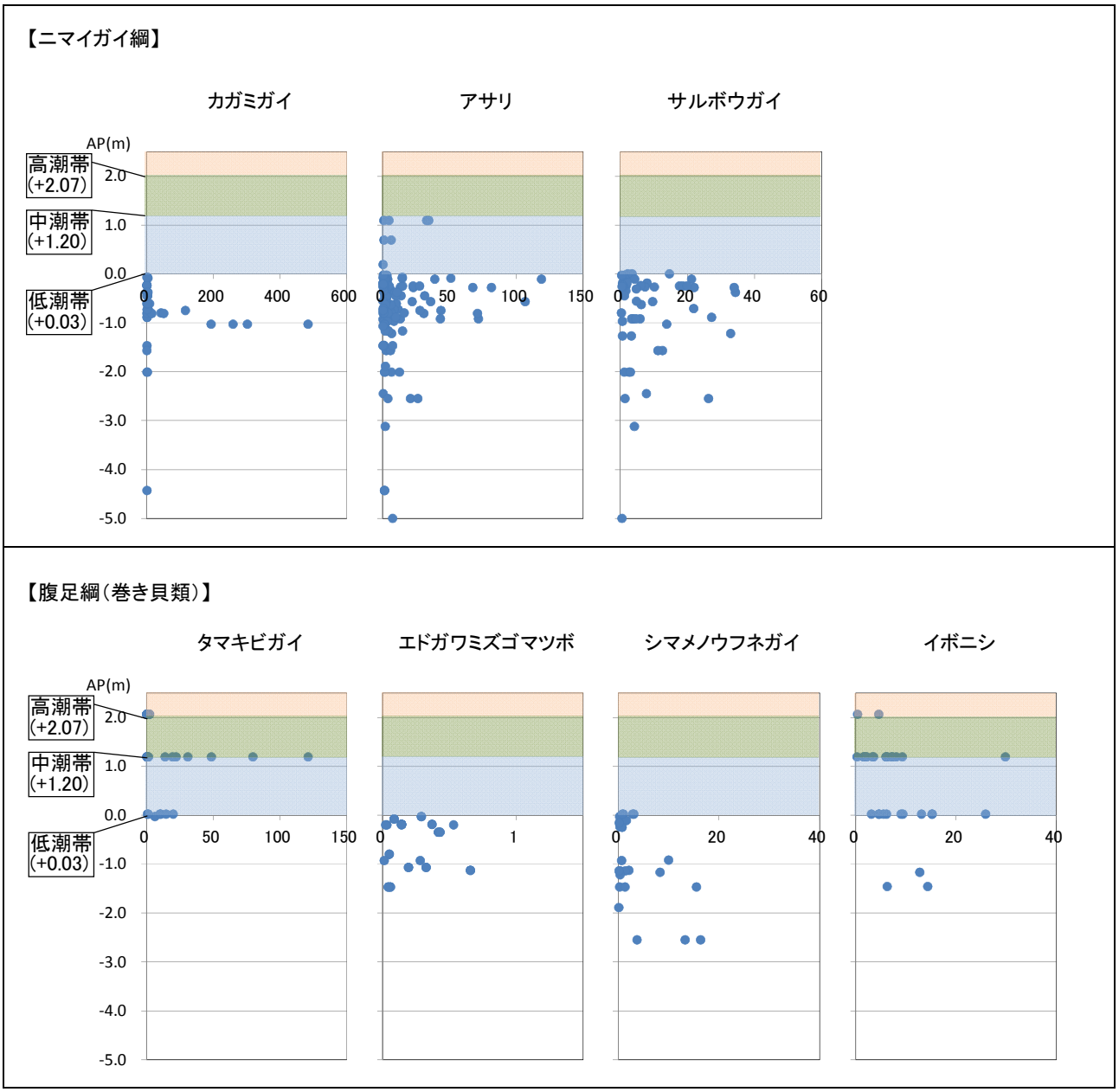


図 1-1(2)　地盤高ごとの底生動物の確認状況

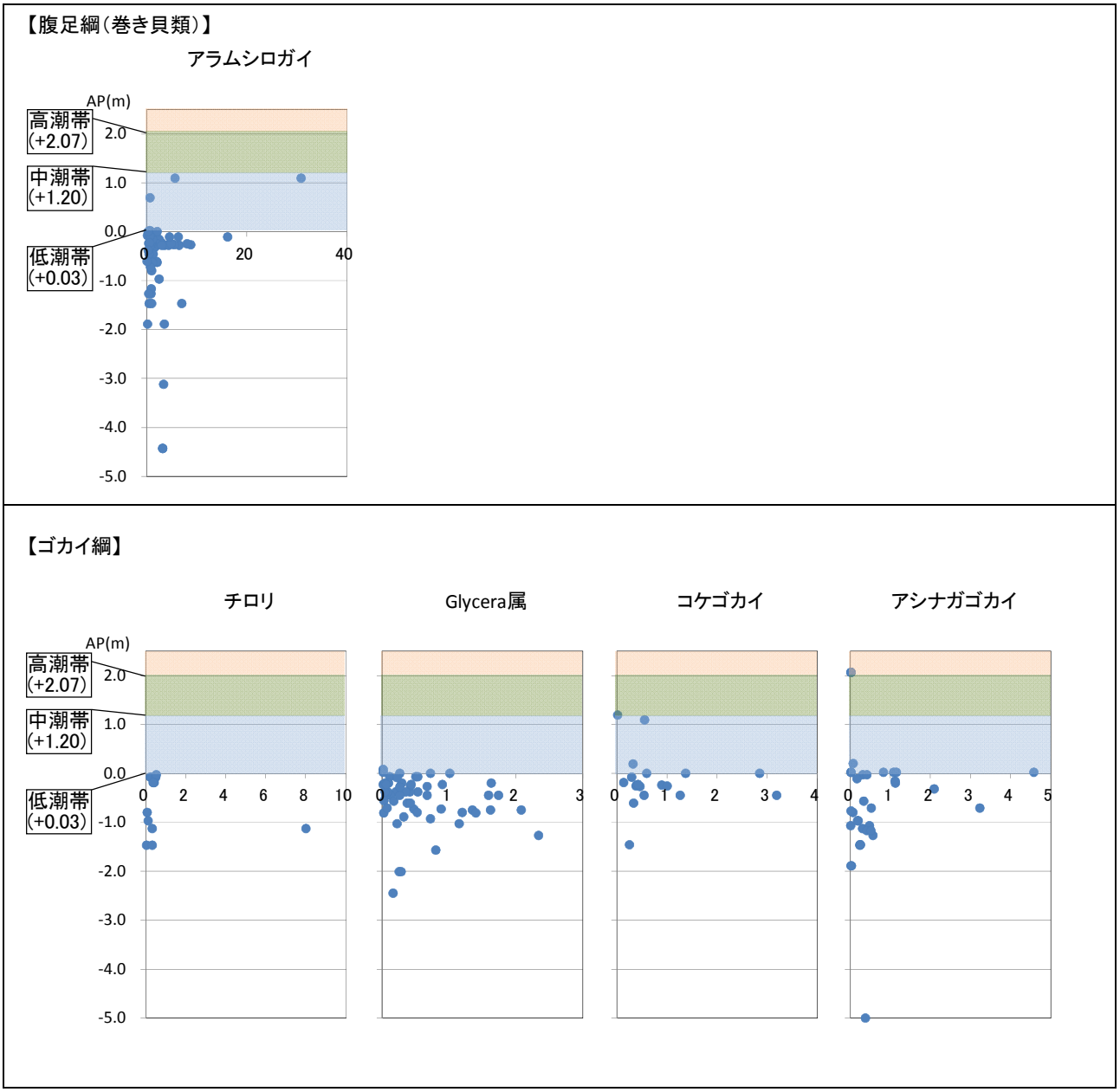


図 1-1(3)　地盤高ごとの底生動物の確認状況

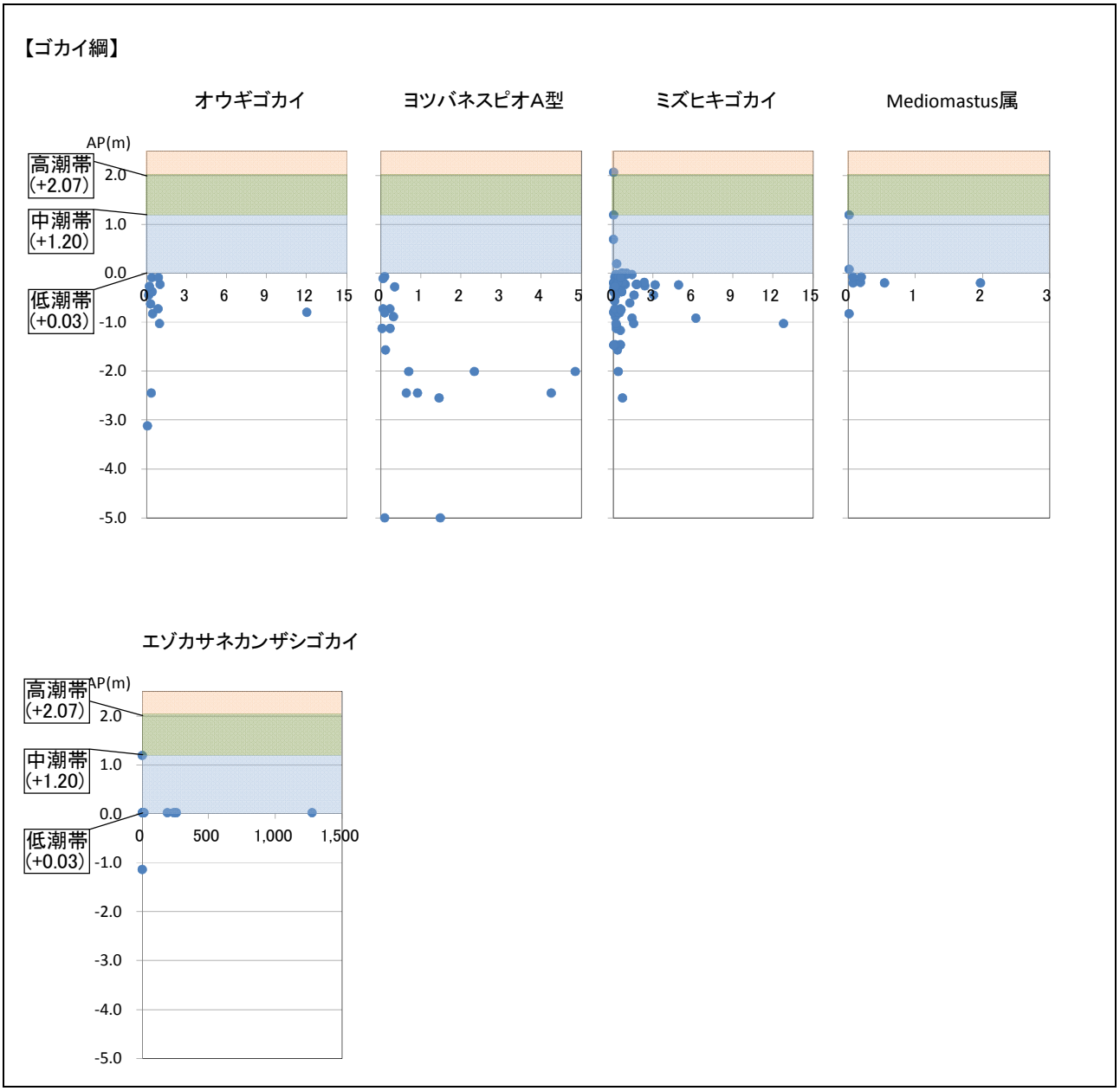


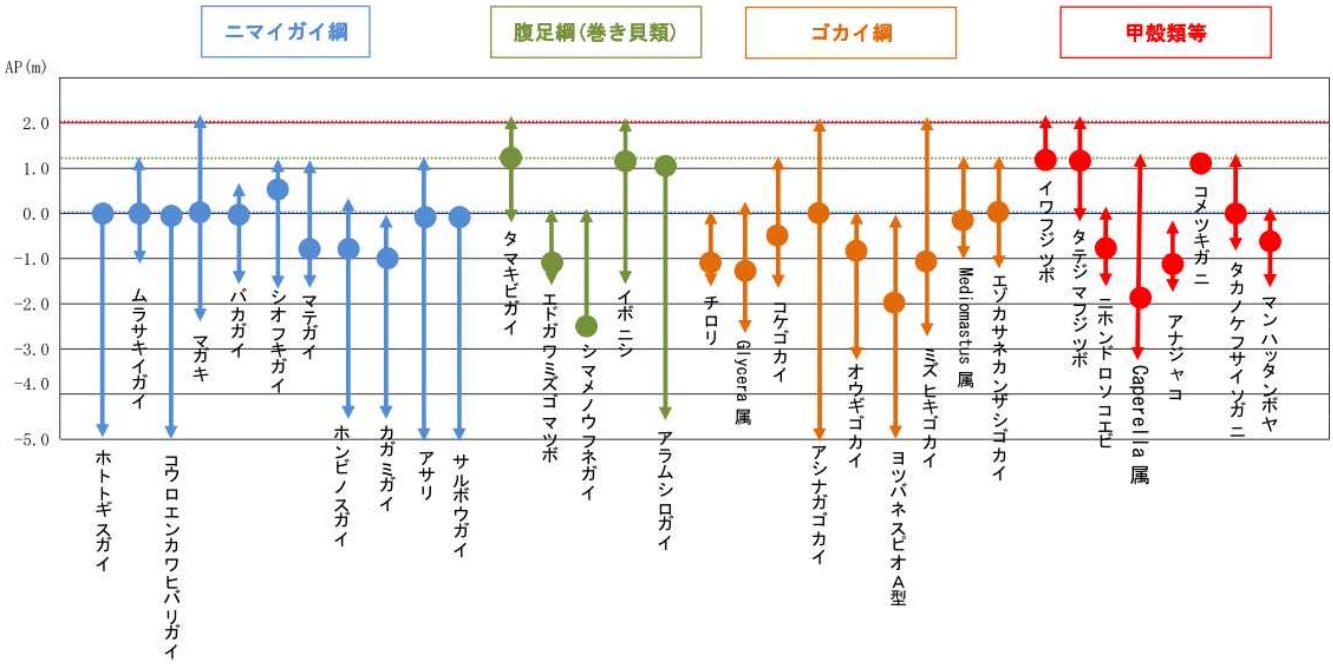
図 1-1(4)　地盤高ごとの底生動物の確認状況

図 1-1(3)　地盤高ごとの底生動物の確認状況

また、地盤高ごとの底生動物の確認状況についての比較結果は、図 1-2 に示すとおりである。

調査結果にばらつきが見られるものの、高潮帯～中潮帯ではイワフジツボ、タテジマフジツボといったフジツボ類が見られ、中潮帯～低潮帯ではコメツキガニ、タカノケフサイソガニといったカニ類や、マガキやムラサキイガイといった二枚貝類、タマキビガイ、イボニシといった巻貝類がみられた。

また、低潮帯では、二枚貝類やゴカイ類が多く見られ、その多くは-1.0m よりも浅い地点で見られた。



※ 図中の●印は、調査結果のうち湿重量が最大であった地盤高を示す。

図 1-2　地盤高ごとの底生動物の比較結果

(2) 水生植物・藻類

現在、整理中

(3) 魚類

現在、整理中

(4) 鳥類

三番瀬周辺における鳥類の個体数の経年変化の傾向は表 2-1 に、鳥類（シギ・チドリ類）の主な生息場は図 2-1 に示すとおりである。

1987 年から 2008 年の間に、有意な減少傾向がみられた種としてはシロチドリがあげられ、有意な増加傾向がみられた種としてはダイゼン、メダイチドリ、オオソリハシシギ、ミユビシギ、チュウシャクシギ、トウネン、ミヤコドリ、カワウ、コアジサシの 9 種があげられる。

シギ・チドリ類では、養貝場周辺、船橋海浜公園、日の出前面域、塩浜 1 丁目地先干出域が主な採餌場所として利用され、船橋海浜公園、防泥柵及びその周辺、塩浜 1 丁目地先干出域が主な休息場所として利用されている。

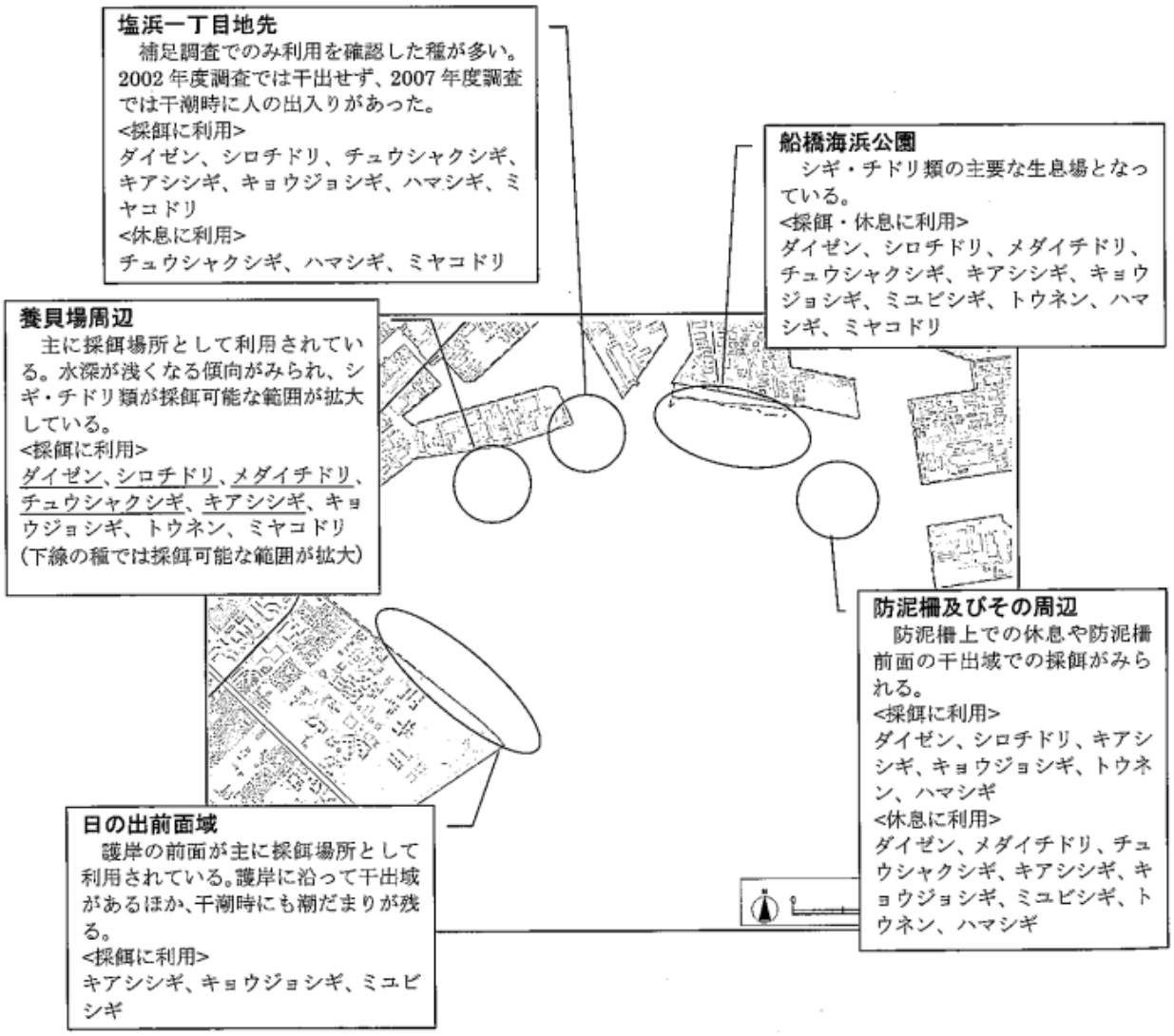
表 2-1　三番瀬における鳥類の個体数の経年変化の傾向

春季	増加	ダイゼン、チュウシャクシギ、ミヤコドリ
	減少	シロチドリ
	増減	(なし)
	傾向なし	メダイチドリ、オオソリハシシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、カワウ、コサギ、ユリカモメ、アジサシ
夏季	増加	ミヤコドリ、カワウ
	減少	(なし)
	増減	(なし)
	傾向なし	シロチドリ
秋季	増加	ダイゼン、メダイチドリ、オオソリハシシギ、ミユビシギ、トウネン、ミヤコドリ、カワウ、コアジサシ
	減少	(なし)
	増減	(なし)
	傾向なし	シロチドリ、キアシシギ、キョウジョシギ、コサギ、ウミネコ、アジサシ
冬季	増加	ミユビシギ、ミヤコドリ
	減少	(なし)
	増減	ハジロカイツブリ(増→減)
	傾向なし	シロチドリ、ハマシギ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ホオジロガモ、カワウ、カモメ、セグロカモメ、ユリカモメ

調査期間：1987 年 8 月～2008 年 3 月

注）「傾向なし」は検定の結果、有意でなかったものを示す。

出典:「平成 22 年度 三番瀬自然環境総合解析 報告書」(平成 23 年 3 月、千葉県)



出典:「平成22年度 三番瀬自然環境総合解析 報告書」(平成23年3月、千葉県)

図 2-1　三番瀬における鳥類（シギ・チドリ類）の主な生息場